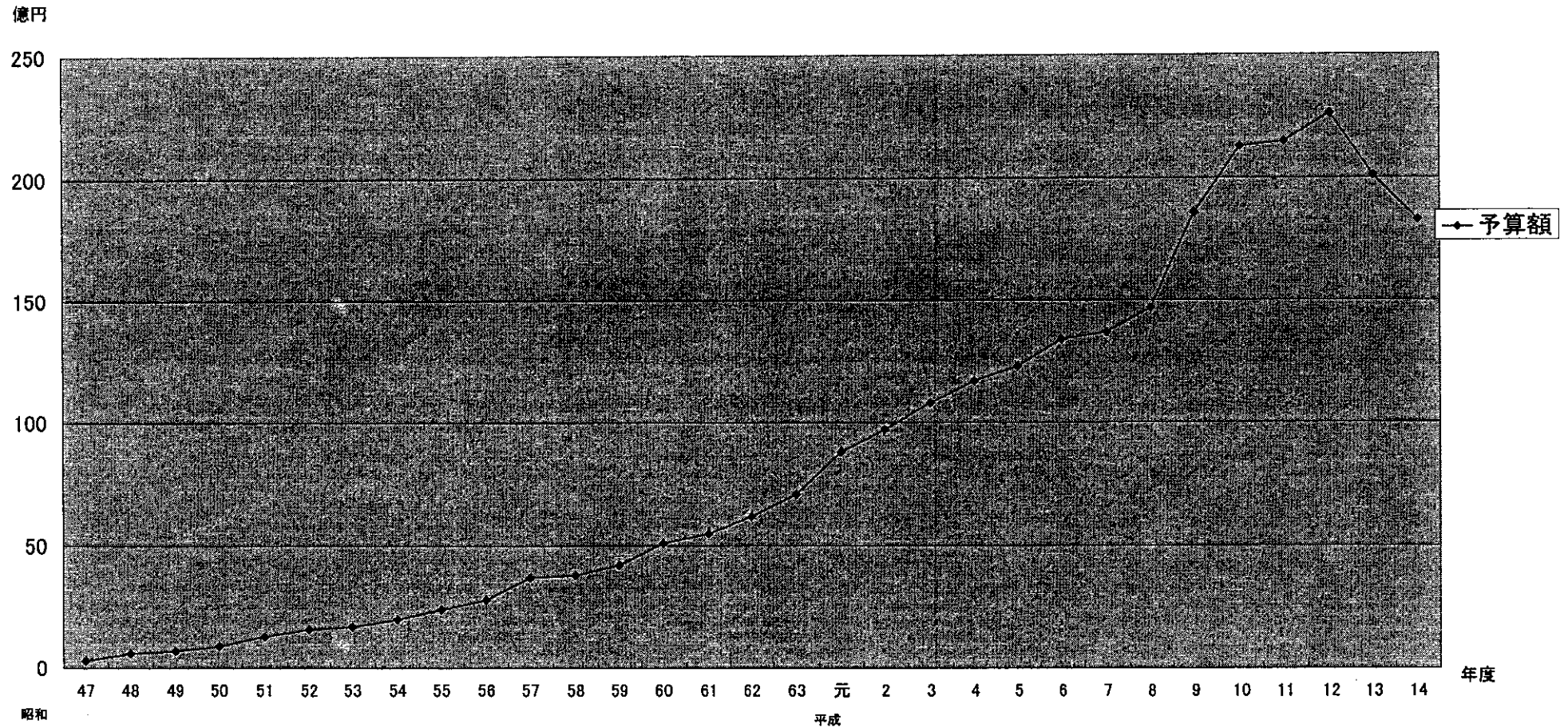


特定疾患治療研究事業 予算額の推移



(単位：千円)

年度(昭和)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63
予算額	310,000	636,169	674,524	890,368	1,277,445	1,577,458	1,724,779	2,027,486	2,389,375	2,801,167	3,672,841	3,771,416	4,194,651	5,100,940	5,548,499	6,193,256	7,139,814
対前年比		205.2%	106.0%	132.0%	143.5%	123.5%	109.3%	117.6%	117.8%	117.2%	131.1%	102.7%	111.2%	121.6%	108.8%	111.6%	115.3%

年度(平成)	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
予算額	8,793,671	9,746,589	10,809,776	11,666,658	12,292,022	13,416,269	13,682,559	14,687,468	18,634,341	21,290,722	21,515,211	22,587,104	20,149,504	18,344,981
対前年比	123.2%	110.8%	110.9%	107.9%	105.4%	109.1%	102.0%	107.3%	126.9%	114.3%	101.1%	105.0%	89.2%	91.0%

※ 在宅人工呼吸器使用特定疾患患者訪問看護治療研究事業等を含む

特定疾患治療研究事業の各対象疾患の現状(平成13年度研究班による)

疾患名	治療研究事業推進 協会の交付件数	平成13年度 交付件数	平成12年度 交付件数	確立された治療法の有無	臨床試験との関係	備考
多発性硬化症	457	7,844	8,786	ステロイド、インターフェロン、免疫抑制剤、血漿交換療法、グロブリン大量投与	ステロイド、インターフェロンは適応	
重症筋無力症	1,506	11,887	12,738	胸腺摘出術、抗コリンエステラーゼ剤、ステロイド、血漿交換療法、免疫抑制剤、グロブリン大量投与	胸腺摘出術、抗コリンエステラーゼ剤、ステロイド、血漿交換療法、一部免疫抑制剤、(麻酔例におけるFK506)、は適応	
筋萎縮性側索硬化症	257	5,023	5,738	未確立	リリゾールは適応 効量は患者者	
脊髄小脳変性症	237	17,334	19,901	未確立	ヒトコン(甲状腺刺激薬)は適応	
パーキンソン病	3,263	50,955	55,798	L-Dopa(ドーパミン補充)、抗コリン薬、アポモクチン、アマンタジン	左記の治療法はすべて適応	
ハンチントン舞踏病	73	524	546	未確立		
シャイ・ドレーガー症候群	71	587	665	未確立		
クロイツフェルト・ヤコブ病	83	186	215	未確立		
亜急性硬化性全脳炎	67	67	84	未確立 インターフェロンの臨床により症状の一時改善例も見られている		
ベーセツト病	2,767	16,570	17,203	コルヒチン、免疫抑制剤、ステロイド	コルヒチンは適応外 シロシキリンは難治性眼炎のみ適応	
全身性エリテマトーデス	4,810	47,295	49,436	未確立 ステロイド免疫抑制剤による非特異的治療	難治性腎炎に対するパルス療法は適応外	中核神経線路に対するパルス療法の有効性が明らかになっている
サルコイドーシス	432	17,696	19,157	ステロイド、免疫抑制剤	左記の治療法はすべて適応	
強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	862	28,453	28,430	未確立 ステロイド 免疫抑制剤による非特異的治療	左記の治療法は適応 ただし難治性病態に対するパルス療法は適応外	
結節性動脈脈管炎	99	2,916	3,193	未確立 ステロイド 免疫抑制剤による非特異的治療	適応外	
大動脈炎症候群	497	5,137	5,229	未確立 ステロイド 免疫抑制剤による非特異的治療	適応外	
悪性関節リウマチ	975	5,032	5,112	未確立 ステロイド 免疫抑制剤による非特異的治療	適応外	
ウエグナー肉芽腫症	51	781	854	未確立 ステロイド 免疫抑制剤による非特異的治療	適応外	
混合性結合組織病	409	5,034	5,546	未確立 ステロイド、免疫抑制剤、血管拡張剤による非特異的治療	適応外	
ビュルガー病	390	10,051	10,089	未確立 ステロイド 免疫抑制剤による非特異的治療	適応外	
ウィリス動脈輪閉塞症	599	7,553	8,240	未確立 脳虚血への対応療法として頭蓋外内血行再建術	脳虚血・脳出血に対する治療は適応	
特発性拡張型心筋症	486	10,970	12,092	未確立		
原発性肺高血圧症	69	338	472	抗凝固療法、在宅酸素療法、フローラン持続静注、肺移植	肺移植は適応外	
バンド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	105	105	135	未確立 静脈瘤出血、うっ血性肝障害を抑えるための対応療法	適応	
特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	198	198	294	抗凝固療法、肺血栓内膜摘除術	肺血栓内膜摘除術は適応外	
潰瘍性大腸炎	965	60,631	66,714	血漿成分除去療法、ステロイド、手術療法	左記の治療法はすべて適応	
クローン病	128	18,036	19,661	栄養療法、ステロイド、免疫抑制剤	左記の治療法はすべて適応	
劇症肝炎	61	317	358	対症療法としての血漿交換療法 肝移植	適応外	
原発性胆汁性肝硬変	481	9,761	10,689	早期例、軽症例に対してはウルソデオキシコール酸内服、末期例に対しては肝移植	肝移植は適応外	ウルソデオキシコール酸内服の予後改善効果については未確立
重症急性膵炎	64	737	892	未確立		
天疱瘡	154	3,005	3,195	ステロイド、血漿交換療法	適応 血漿交換療法については回数制限有	
蓑皮水疱症	77	302	311	未確立		
腫瘍性乾癬	118	1,129	1,198	レチノイド、免疫抑制剤	レチノイドは適応	
神経線維腫症	800	1,162	1,453	未確立、 対症療法として手術療法(良性腫瘍切除術)	手術療法は適応	
再生不良性貧血	2,748	9,784	10,226	骨髄移植、グロブリン投与、免疫抑制剤 サイトカイン療法	一部適応	
特発性血小板減少性紫斑病	852	29,201	30,991	ステロイド、免疫抑制剤、摘脾	左記の治療法はすべて適応	
アミロイドーシス	80	790	885	未確立		
ファブリー(Fabry)病	48	48	79	未確立		
副腎白質ジストロフィー	54	0	54	未確立		造血幹細胞移植が有効な症例も有
後縦靭帯骨化症	204	18,414	20,476	手術療法	適応	
広範脊柱管狭窄症	54	1,381	1,643	手術療法	適応	
特発性大腿骨頭壊死症	646	7,890	8,965	手術療法	適応	
スモン	2,904	2,041	2,070	後遺症に対する対症療法のみ	適応	
原発性免疫不全症候群	509	1,105	1,142	造血幹細胞移植 免疫グロブリン補充療法	免疫グロブリンは適応	海外ではX連鎖重症結合免疫不全症に遺伝子治療が確立されている
網膜色素変性症		16,885	18,568	未確立	内服薬(ベニオン)は適応	
計		435,678	472,312			